

「情報処理学会論文誌：数理モデル化と応用」の編集にあたって

城 和 貴[†]

前任の阿久津先生に代わり、平成 16 年 4 月より、城が情報処理学会論文誌：数理モデル化と応用の編集委員長を務めております。前編集委員長には、2 年間にわたり本論文誌の取りまとめに御尽力いただいたこと、深く御礼申し上げます。編集委員長の交代にともない、TOM 第 11 号 (TOM11) の出版が、予定より 3 カ月遅れたこと、読者の皆様にはお詫び申し上げます。

TOM11 では、2003 年 9 月の MPS46 (広島), 12 月の MPS47 (東京), 2004 年 3 月の MPS48 (下呂温泉) で研究会連動投稿のあった論文と、研究会非連動の再投稿論文の合計 11 編を掲載しています。MPS46-48 の研究会連動投稿論文の採録論文数/投稿論文数は、6/11, 3/9, 2/4 で、採択率は 46%となります。

TOM のこれまでの通算の採択率を計算しますと、次のようになります。

- TOM1-9 総計=113/213 = 53.05%
- TOM1-10 総計=138/249 = 55.42%
- TOM1-11 総計=149/273 = 54.58%

TOM11 の採択率というより、MPS47 での採択率が非常に低いことが分ります。この回だけ採択率が低かった理由は、特に思いあたることはないのですが、TOM も発行回数が 2 桁になり、編集委員の間で変な権威主義が生まれつつあるのではないかと危惧しています。なお、以前に不採録となった論文の中には再投稿により採録となる論文がありますが、それらは 2 回の投稿としてカウントされることとなります。

本研究論文誌の特徴の 1 つとして、いったんは不採録として判定しても価値があると認められる論文については再投稿、再々投稿を促すということがあげられ、今回掲載された論文の中にもそのようにして採録に至ったものが含まれています。なお、今号の採録論文 11 編の担当編集委員は掲載順で、小林聡、古瀬慶博、高田司郎、伊藤実、古瀬慶博、伊藤実、庄野逸、古瀬慶博、横内寛文、城和貴、坂本比呂志となっています。

TOM11 に掲載された論文は、これまで同様、多分野にわたっています。特に注目を集めるものとしては、事例紹介論文の「最長しりとり問題の解法」が

あげられます。これは TV の人気番組、「トリビアの泉～素晴らしきムダ知識～」で取り上げられたものを、TV 放映前に MPS で発表したときの論文です。この発表に関しては反響が大きかったため、著者は解説用に「専門家でない方のための最長しりとり作り方」(<http://al.cs.tuat.ac.jp/yshinano/shiritori/>) も公開しておりますので、興味のある方はそちらも御覧ください。

事例紹介論文というのは、TOM 独自の論文形式であります。TOM11 では 2 編の事例紹介論文が含まれています。これは、よく Short Note とか Letter とかとは比べられますが、まったく違った採録基準によるものであることを確認したいと思います。事例紹介論文は、新規性も有用性も十分とは見なされなかったけれど、モデルの適用例という観点からは読者にとってきわめて有益であり、オリジナル論文と変らない情報を読者に与えるものと編集委員会が判断した論文であります。先にあげた「最長しりとり問題の解法」などは、その典型的な例であり、事例としてこれだけ社会に対するインパクトを与えた論文は過去に例をみません。

平成 11 年 2 月に第 1 号が発刊してからすでに 5 年以上が経過し TOM も論文誌 (Transaction) として定着し、平成 15 年度は特集号を含め年間 3 号を発刊いたしました。平成 16 年度は特集号を含め年間 3 号の発刊を予定しておりましたが、特集号単独の刊行が困難となったため、年間 2 号の発刊になるかもしれません。配布部数につきましては、これまでどおり 1,000 部を予定しております。なお、論文誌の定期購読制度もありますので、ぜひ、こちらをご利用ください。また、研究会開催記録、研究会登録案内、投稿案内などに関する最新の情報はすべて WWW ページ上に掲載しております。すべての情報は研究会ウェブページ (<http://www.ipsj.or.jp/sig/mps/>) よりたどることができますので、MPS 研究会および論文誌 TOM に関しては、そちらをご参照くださいますよう、お願い申し上げます。

[†] 情報処理学会論文誌「数理モデル化と応用」編集委員長
奈良女子大学